

「平成20年度健診・保健指導事業を振り返って」

保健所機能強化と人材育成を
介した市町村支援

埼玉県健康づくり支援課
加藤 静子

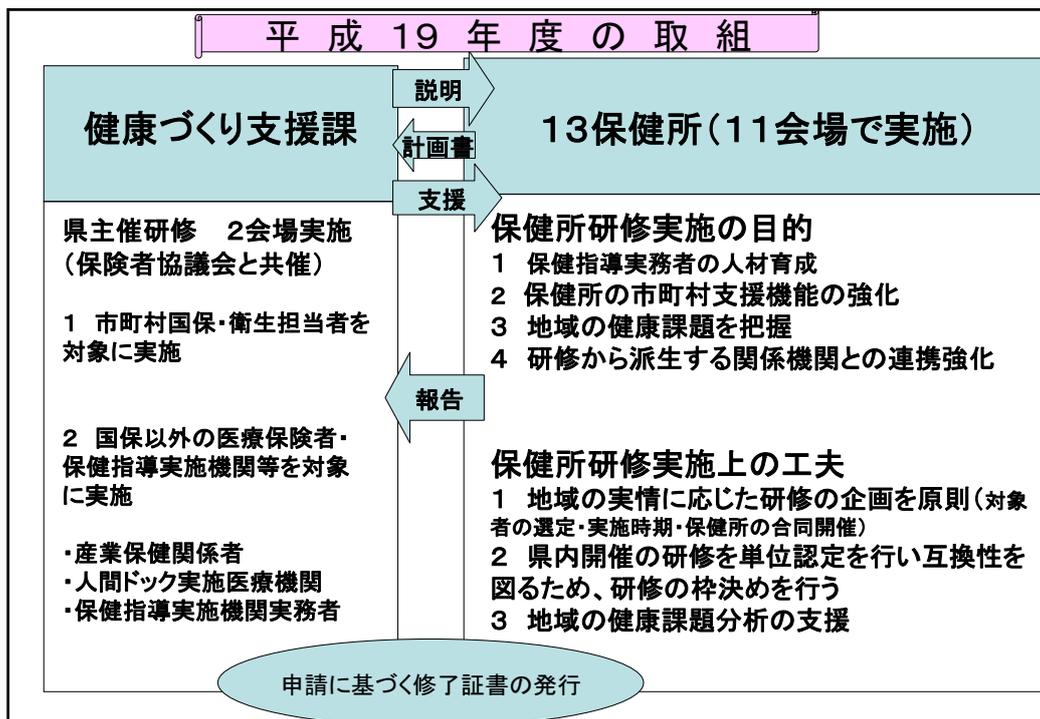
本日の話

平成19年度の取組から
県と保健所の特定健診・保健指導研修

平成20年度の研修実施

生活習慣病対策総合推進事業をととした保健所
の市町村支援

保健所の機能強化



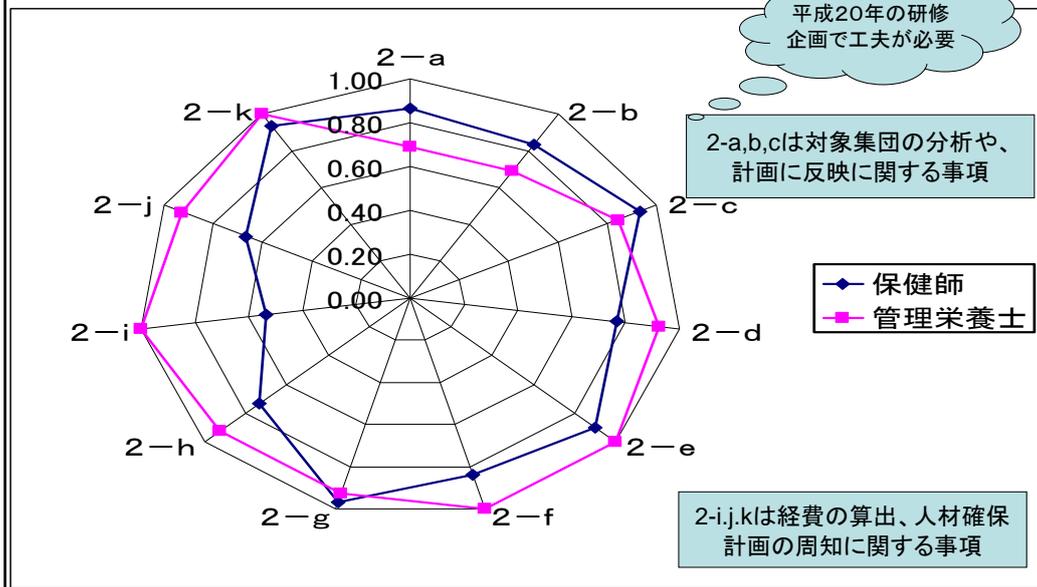
研修理解度に関するアンケート

・研修前後に受講者の自覚的理解度を把握するためアンケートを実施(一部抜粋)

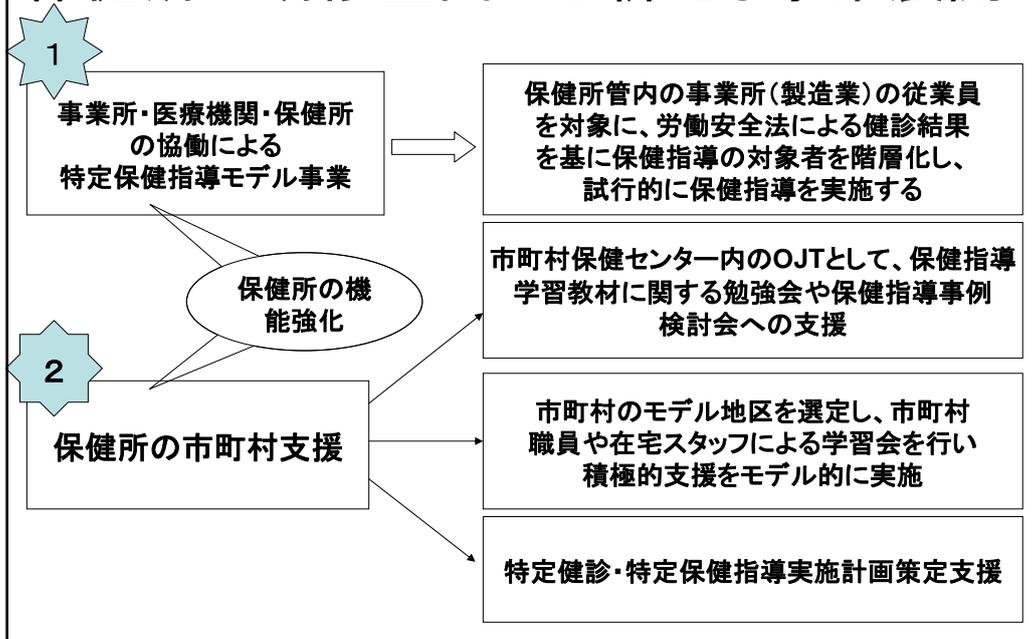
(達成目標4項目設定し、さらに詳細項目(34)を設定。5段階の自覚的評価を行う)

項 目	達 成 目 標
1 特定健診・保健指導の基本的な考え方を理解し、説明できる。	
1-a	メタボリックシンドロームの概念について理解し説明できる。
1-b	特定健診・保健指導の目的について理解し説明できる。
1-c	保健指導の階層区分について理解し説明できる。
2 特定健康診査等実施計画の作成が出来る。	
2-a	健診データ分析により保険者の健康状態を把握できる。
2-b	医療費分析により保険者の疾病状況、費用等を把握できる。

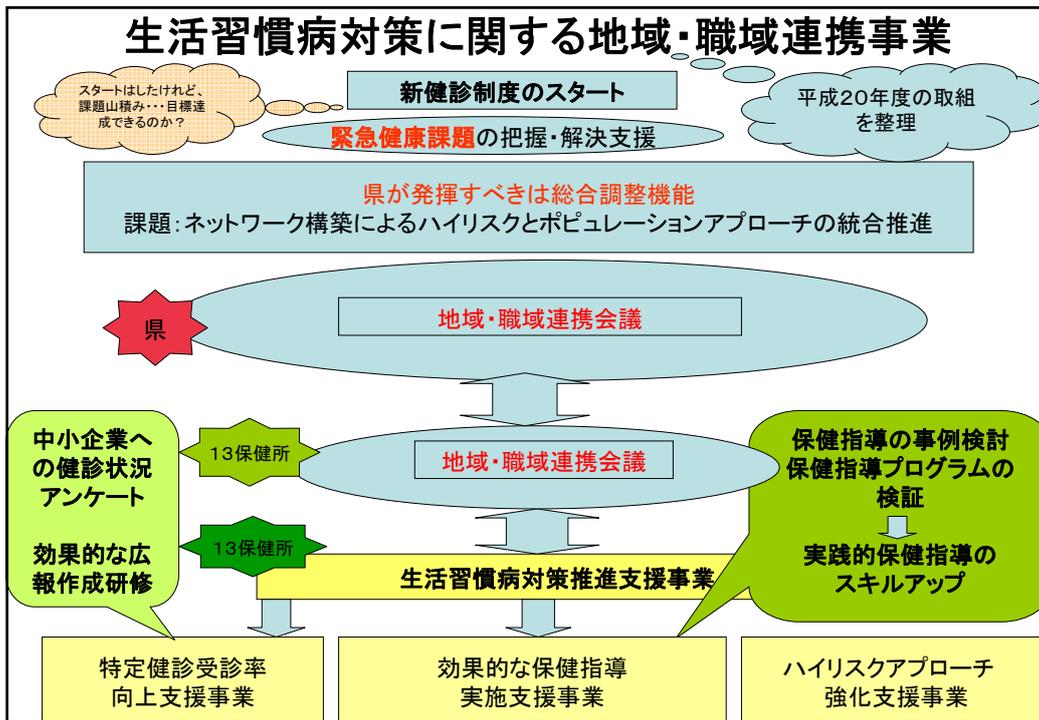
特定健診等の実施計画の策定ができる 研修受講前後の伸び率の変化



保健所の研修企画から新たな事業展開



生活習慣病対策に関する地域・職域連携事業



平成20年度(県主催研修)の企画

ねらい
市町村保健師が現状に向き合う

自前で保健指導を実施する市町村保健師を対象

健診データ分析評価ができる

地域の課題や目標を自分の言葉で表現できる

職場内のOJTを実施し、共有できる

研修の課題設定

健診データの分析(HbA1c)

個別事例の保健指導概要提出

OJTの実施結果報告書提出

・地域の健康課題の分析

・地域の健康課題解決のための優先順位

・目的・目標の整理

リーダー研修の目標

目的

- ④ 糖尿病等生活習慣病対策を行うため、地域の健康課題解決のため目的、目標、具体的対策が説明できる
- ④ 保健指導対象者の状況をアセスメントし、効果的な保健指導が提供できる
- ④ リーダー研修受講者はOJTを実施し組織内の共通認識を形成する

習得目標

- ④ 検査値から対象者(個別ケース)をアセスメントできる能力を身につける。
- ④ 健診結果から対象集団をアセスメントし、優先順位を検討できる
- ④ 地域の健康課題は何かを明らかにする
- ④ グループワークによる、他の市町村の状況を知り共有できる
- ④ 市町村間で相談できる関係、良いところを認めあえる関係を作る

評価

- ④ OJT課題シートの提出率 研修企画のプロセス評価

平成20年度リーダー研修カリキュラム

- 1日目 「今考えて欲しいこと -G・W-」
「現状における問題点-G・W-」
「糖尿病の病態理解」 講義 専門医
- 2日目 「事例のアセスメント」 講義 演習
「健診結果を踏まえた効果的な保健指導」
ロールプレイの実施 -G・W-
- 3日目 「保健指導プログラムについて-G・W-」
「保健指導の評価と今後の課題」 講義

研修課題の提出について

・事前提出課題

地域の健康課題分析と目的、目標の設定

保健指導対象者の事例

初回面接のためのアセスメントシート

・研修終了後のOJT実施報告 94%提出

OJT実施報告書により報告

研修の伝達

健康課題分析・目的・目標設定及び共有

保健指導についての共通認識

リーダー研修における課題把握のためのフォーマット その1

総人口	40～74歳人口	国保40～74歳人口	平成19年度基本健康診査HbA1c最高値	平成20年度特定健診HbA1c最高値
103,782	47,449	20,823	14.2	11.6
			人工透析患者数	平成19年度新規透析患者数
			53	26

特定健診実施状況

H20年度特定健診対象者数	受診者数	9月末現在実施率	9月末現在受診率
20,167	1,984	60%	9.80%

保健指導階層化等

情報提供対象者(人)	動機付け支援対象者(人)	積極的支援対象者(人)	糖尿病治療中者(人)	その他疾患治療中者(人)
1,801	153	30	169	1,247

リーダー研修における課題把握のためのフォーマット その2

情報提供(人)	動機付け支援(人)	HbA1c	積極的支援(人)	治療中(人) (DM治療中含む)
734	311	5.1以下	27	259
4056	908	5.2~6.1未満	359	1793
291	86	6.1~6.5未満	62	222
121	43	6.5~7.0未満	27	99
100	27	7.0~8.0未満	27	91
70	23	8.0以上	8	54
5372	1398	合計	510	2518

健診データの分析から地域の課題が明らかに

地域・職域連携会議 生活習慣病対策総合推進事業の実施
保健所の広域的調整能力の発揮

地域の生活習慣病対策の充実

重症化の予防・医療費削減

県民のQOL向上

リーダー研修における課題把握のためのフォーマット その3

地域の健康課題について	死亡状況、健診結果、レセプト分析から見られる地域の特徴・課題
<p>全死亡に占める早世死亡の割合が多い。死因では心疾患が全国・県と比較して多い。 健診結果では、血圧、LDLの高値の割合が高い。 レセプトからみると、40~74歳の歯科受診を除く診療件数では約4割が循環器疾患と内分泌疾患によるものとなり、内訳として高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管疾患の占める割合が多い。</p>	
地域の健康課題について	保健師としての地域活動から見られる特徴・課題
<p>バナナダイエット等マスコミから入手した健康情報をうのみにして実践している対象者に遭遇することから、食事や運動などの適切な行動を伝えていく手段(ポピュレーションアプローチ)をもつことの重要性を感じる。 (その他の特徴は様式11に記載)</p>	
医療費削減対策について	人工透析患者への家庭訪問の実施状況(有・無)
無	(←選択すること 実施有の場合は訪問により把握出来た課題を記入)
医療費削減対策について	医療費削減に向けて取組べき地域の優先課題
<p>特定保健指導とともにその対象外ではあるが保健指導の必要な人へのアプローチが重要。 また、服薬中(医療対象者)であってもコントロールが不良となっている人へのはたらきかけも今まで以上に医療機関でみていただくようお願いしたい。(治療中でありながら数値の高い人のレセプトの確認などは保険者としてできることとなるか) また、若い世代からの健康づくりも重要</p>	

OJT実施報告書 その1

OJTの実施概要

《特定保健指導伝達講習会》日時:平成20年12月16日(火)10時から12時 対象:保健師7名(含臨時2名)管理栄養士4名(含臨時3名)	
1 講義資料からの伝達(4人の講師陣からの講義内容を資料をもとに説明した。)	10:00~10:30
2 市の状況と課題・対策	10:30~11:00
3 個別のアセスメント(データから考える)	11:10~11:35
4 特定保健指導の進捗状況(現在実施中の特指人数・コース・評価日・課題等を共有)	11:35~11:50
5 その他 情報交換	11:50~12:00

地域の健康課題・保健指導について共有できたこと

10月末現在の特定健診・特定保健指導の実施状況とHbA1cから見た階層化等の状況(10月末までの受診者1500人)また、市の健康課題についても提示し、意見交換を実施した。

〔共有できたこと〕

- ・日頃の保健活動から、健診を一度も受けたことのない方が、重症化して医療が必要になったという例等→健康になるため・より幸せになるために健診を受けるのだというメッセージが必要。(受診の底上げ)
- ・特定保健指導においては、生きがいづくり視点と支援も必要である。
- ・医療機関との密な連絡調整は、今後も必要である。
- ・HbA1c高値でも、情報提供レベルであるという現状から、医療機関との連絡調整や特定保健指導の案内通知対象者の検討・ポピュレーション事業の検討をしていく必要がある。

〔共有できたこと〕

- ・いままで実施してきた事業や保健指導方法の再確認となった。
- ・事前検討シートを作成し、言語化・文章化してアセスメントすることで、初回面接が深まる。
- ・初回面接シートを活用していきたい。

OJT実施報告書 その2

地域の健康課題における今後の取組

目的

住民一人ひとりが、自分の体の状態や特徴を知り、健康づくりに取組その人の生活の質を維持・向上する

目標1 保健指導対象者が保健指導を受けることにより自分の状態を理解し、生活習慣の改善ができる。

目標2 住民が自分の体の仕組みや健康に対する意識を高め、まず健診を受診する。

目標3 受診勧奨値の者が適切な生活習慣改善や受診行動が選択できる。治療継続者が治療の必要性を理解し重症化しないようにする。

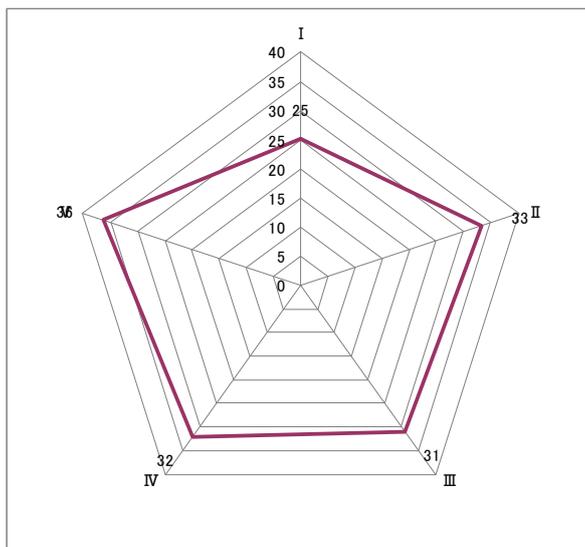
目標1 保健指導対象者が保健指導を受けることにより自分の状態を理解し、生活習慣の改善ができる。

特定保健指導実施率を20%以上にする(実施計画目標値)
保健指導対象者に直接連絡を取り、対象者の都合に合わせた面接日の設定を行う。
特定健診制度の仕組み、目的を伝え保健指導の必要性を理解して貰う。
保健指導で用いる教材を吟味する。
対象者が自分の体と結びつけて理解し、生活習慣が改善できるような保健指導を提供するため保健師、管理栄養士の力量形成に努める。

リーダー研修企画に関するプロセス評価

I	現状分析について	5項目ごとに8つの小項目設定
	地域の健康課題を分析しているか	
	地域の保健事業の評価を行っているか	
II	事業の企画について	
	事業の目的が明確になっているか	
	事業の目的に沿った目標が設定されているか	
III	事業の提供体制について	
	事業の実施に必要な関係機関と連携をとれているか	
IV	事業(プログラム)について	
	事業のプログラムは目標・目的を達成できるか	
V	事業(プログラム)の実施及び評価	

研修の企画にあたり現状分析の必要性が明確



評価点	評価項目
25	現状分析
33	事業の企画
31	事業の提供体制
32	事業(プログラム)について
36	事業(プログラム)の実施・評価
157	合計

保健所の生活習慣病の取組(H20)

地域・職域連携会議

生活習慣病対策総合推進事業

特定健診受診率促進	効果的な保健指導実施事業	ハイリスクアプローチ支援事業
労働衛生管理担当者対象に 特定健診受診に関する実態 調査を実施 受診を促すための広報媒体 作成研修を実施 商工会議所健診のデータの 受け渡しの調整会議 7保健所実施	保健所管内市町村・産業保健の 保健指導実務者を対象に研修会 の企画・実施 12保健所実施	データ分析から健康課題抽出 糖尿病に係わる医療連携 モデル市のハイリスク者支援 受診勧奨値対象者への働きかけ 糖尿病専門医との連携 4保健所実施

平成21年度は、成果を踏まえて保健所が市町村ヒアリングを実施
3つの事業を全保健所が実施

保健所と市で協働した ハイリスクアプローチ支援事業

事業の目的 ねらい

 特定健診結果で要医療(糖尿病に着目しHbA1cが基準値以上)となった者への支援を行う。

適切な状況把握を行い

(家庭訪問指導等により)生活習慣における課題への
気づきを促し、医療へ結びつくように支援する。



事業をととして保健指導実務者としてのスキルアップを
図る

事業内容

- 対象者の選定 (基準に基づき)
- 事前事例検討会 (3回)

糖尿病専門医による助言

事例に対する健診結果の見立て、医療機関の受診の必要性、
情報収集すべき項目、指導の方向性の確認 等

- 訪問指導等支援の実施 (22人)
- 支援効果の確認
受診状況の把握
(状況に応じた再アプローチ)
- 事後事例検討会 (3回)

指導内容及びその結果について
報告しその後の方向性についての確認 等

①個別アセスメント結果の検討
・経年健診結果
・レセプト情報
・質問票等
②専門医への確認事項助言内
容の整理等

保健所の果たした役割
保健と医療の連携・調整

①支援の振り返り
②専門医への確認事項助言内
容の整理等

事業における保健所と市の協働

保健所の役割

- 研修会や担当者会議の設定
- スーパーバイザーの調整
- 情報発信・提供
- 医師会との交渉
 - 地元医師会へ協力依頼
 - 医師会事務局への説明
 - 理事会での事業承認
 - 専門医の推薦・派遣

事業の効果



連携強化

保健所・医師会・ポピュレーションアプローチ担当



知識・情報の整理

最新の糖尿病治療に関する知識の習得

糖尿病専門医の情報



様々なツールの開発

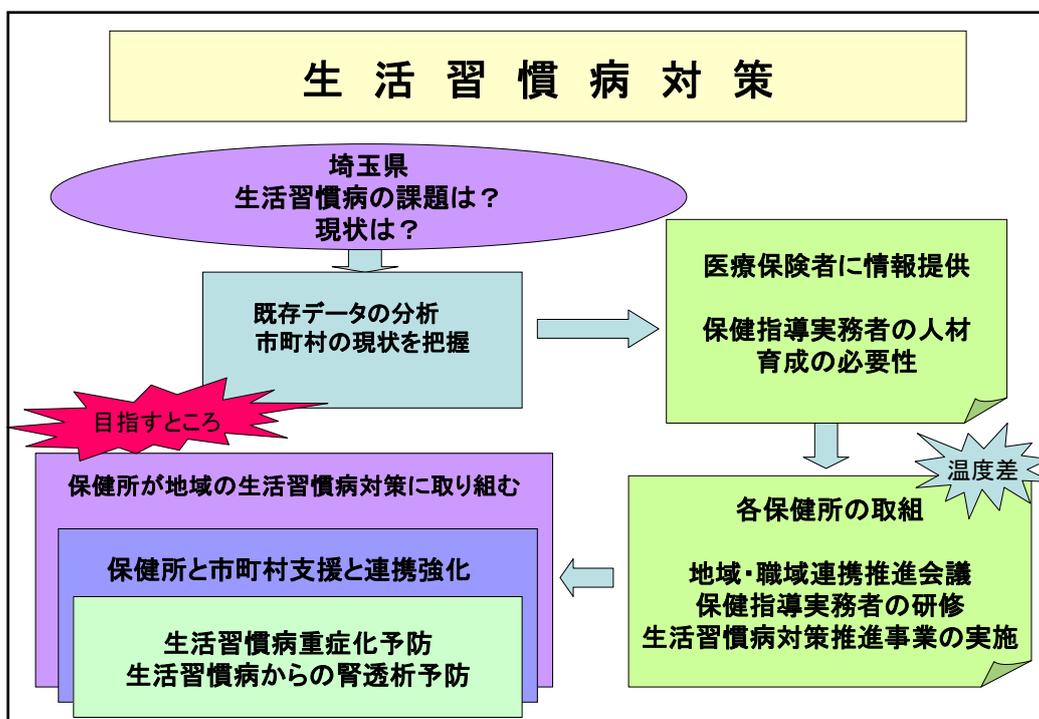
アセスメントシート

保健指導業務チェックシート

健康に確認シート

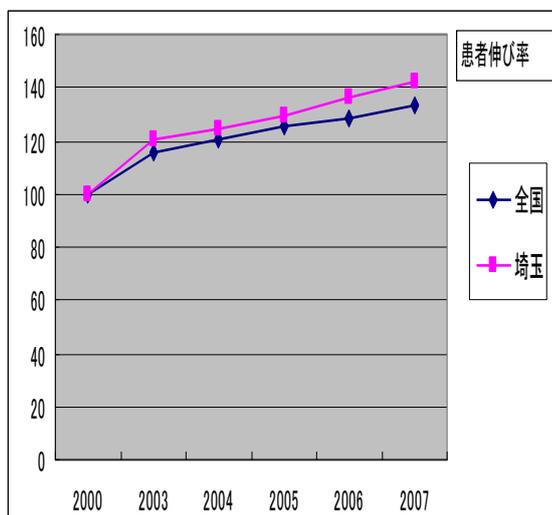
医療機関連絡表

指導用教材



人工透析患者数（全国・埼玉県）

	全国	埼玉県
2000	206.134	9.702
2003	237.710	11.718
2004	248.166	12.079
2005	257.765	12.574
2006	264.473	13.177
2007	275.119	13.791



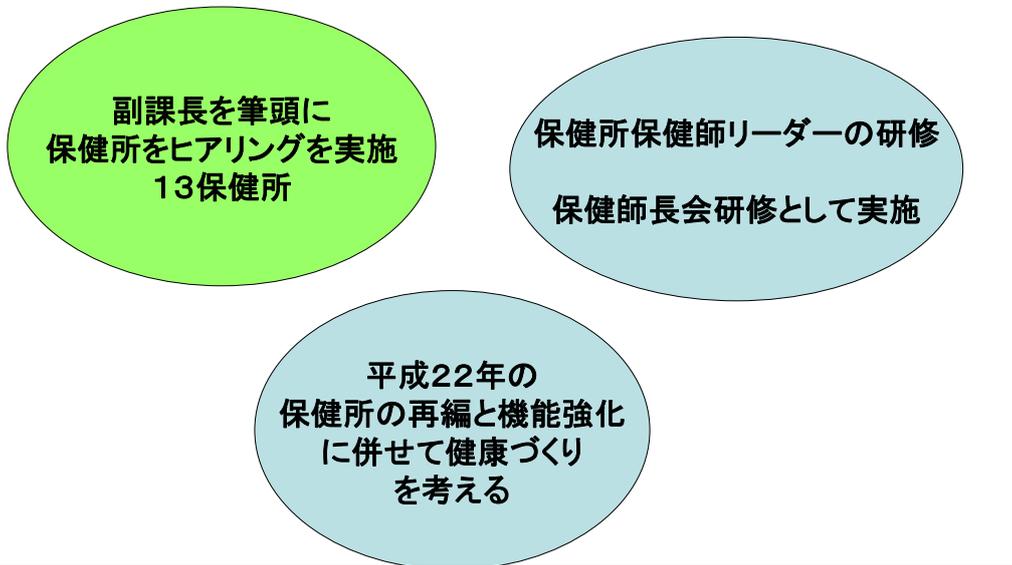
日本透析医学会データより

腎透析になられた方の話

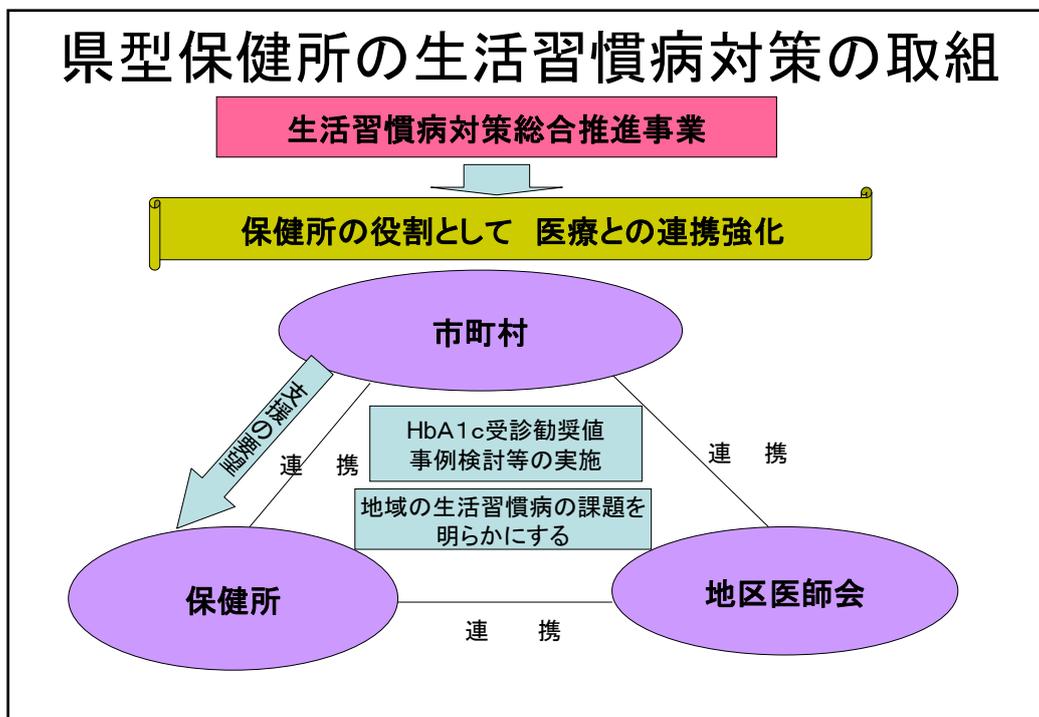
40代から血糖が高かった。
 仕事が忙しく医者にかかったり、少し数値が良くなったら放っておいた。症状が無いから何とも思わなかった。定年退職をして妻と旅行に行ったりと計画していたが、体調がすぐれず受診したら、透析となり予定していた人生がくるってしまった。血糖が高い状態が長く続くと透析になるとは、誰も教えてくれなかった。
 予防できることを知っていたら……。

生活習慣病対策により 透析になる人を1人でも予防したい。

保健所の健康づくりに取り組む仕掛けづくり



県型保健所の生活習慣病対策の取組



地域の生活習慣病対策に取り組むために

市町村の専門職として

地域アセスメントを実施する

優先課題を明らかにする

地域の生活習慣病対策の目標を設定する

保健所の専門職として

管内市町村の状況を把握する

人材育成を含めた市町村支援を実施する

医療と保健との連携・調整